

大溝城から大溝陣屋へ

織田一族の城

JR近江高島駅で下車をして東側に出ると、右手に見えるのが高島市民病院の建物です。そのさらに東向こうを眺めると、苔むした石垣があるのが分かります。ここが天正6年(1578)に織田信長の甥にあたる信澄(磯野員昌)が養父が築城した大溝城の天守台の石垣です。

本丸には天守と櫓が配され、そこを囲む城堀は乙女ヶ池を通じて琵琶湖につながっていたことが分かります。また、天守を囲む侍町には、多くの家臣たちが屋敷を構えていました。

天正10年、本能寺の変が起これば織田信長が明智光秀によって討たれると、光秀の娘を妻にしていた信澄にも嫌疑がかかり、信澄は丹羽長秀らの襲撃をうけて大阪城で自害しました。

大溝陣屋の形成

信澄の死後、城主は次々と変わり、役割を終えた天守は、甲賀の水口岡山城に移築されました。

天下分け目の関ヶ原合戦の後、江戸幕府が成立すると、元和5年(1619)伊勢上野城から分部光信が2万石の大溝藩主として45人の家臣団を伴って着任し、城下に大溝陣屋を形成しました。

大溝陣屋は大溝城三の丸付近に造られました。藩政の中心となる御殿の位置は現在の分部神社周辺

にあたり、家臣団が住む武家屋敷群はさらに西側に建てられました。その陣屋の正門であった総門は、現在保存復原修理が進み、往時をしのばせる佇まいが戻ってきました。令和6年度には一般公開される予定です。

大溝城跡と大溝陣屋総門は、それぞれ大溝の歴史を伝える遺構として、国の重要な文化的景観「大溝の水辺景観」の重要な構成要素として保存継承されています。

高島歴史民俗資料館では11月1日〜12月10日まで「大溝城から大溝陣屋へ」を開催します。

「大溝城から大溝陣屋へ」のお知らせ

時 11月1日(水)〜12月10日(日) 月・火休館
所 高島歴史民俗資料館

主な展示品

- 大溝城下古図
- 大溝城天守台周辺出土瓦
- 大溝陣屋周辺出土焼塩壺
- 大溝陣屋古図 他

〈展示品の中から〉

『瑞雪禅院梵鐘』(高島市指定文化財)

この梵鐘は、分部家が伊勢上野城主時代、当時の城主光嘉が早世した長男光勝のために建立した光勝寺に、養子光信が慶長20年(1615)京都三条釜座で造らせて安置したものです。分部家の大溝転封に伴い光勝寺は大溝に移され、同梵鐘も現在瑞雪禅院の所蔵となっています。

総高：79.3cm 口径：51.5cm 重量：83.6kg

瑞雪禅院の梵鐘

問 高島歴史民俗資料館
☎ (36) 1553

編集雑感

今月号の表紙は今津地域で行われた、環境学習の一コマです。

この活動は、今津地域住民自治協議会がつなぎ役となって、今津地域の小中学校と地域が連携して行われ、約200人が参加されました。当日は不安定な天気でしたが、時折、琵琶湖には虹がかかり、にぎやかな湖岸の保全活動となりました。(Y)



広報たかしま

令和5年

11

月号

No.286

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課

〒501-8501 滋賀県高島市新旭町北畑5の10番地

☎ 0740(25)8000(代)
https://www.city.takashima.lg.jp
t-info@city.takashima.lg.jp